

2008年8月5日

事業委員会中間報告

1. クラブ野球振興計画について

(1) クラブ野球リーグ構築5カ年計画に関わる調査について

本年、2月に提出した「クラブ野球リーグ構築5カ年計画」に対する意見については、本年10月末までに各都道府県ごとに取りまとめて提出することとなっている。本年度は以下のとおり。

- ① 各グループ（都道府県単位を原則とする。）別に「クラブ野球リーグ構築の理念」に基づく協議を始める。
- ② 各グループとも2008年10月までに「クラブ野球リーグ構築5カ年計画」（2008年2月提出）に対する意見を集約し、日本野球連盟へ提出する。
- ③ 事業委員会として「クラブ野球リーグ構築5カ年計画」の最終案をまとめる。

(2) 現状の整理

① リーグ戦（又は自主運営大会）がスタートしている例

- ・ 土日祝日を中心に各クラブが運営する事業委員会が提唱する形で進んでいる。（埼玉）
- ・ エイデンという電気製品の販売チェーン店がスポンサーとなり運営をバックアップしている。愛知県内は4チームなので、岐阜や三重などへの拡大も検討している。（愛知）
- ・ 各クラブチーム主体の大会が発足（大阪）

② 課題

- ・ 球場の確保
公営球場の土日祝日の利用は高校、大学、少年野球、軟式など競合する。学校のグラウンド利用を検討する。
- ・ 自主運営
各々の地域における運営の中心となるリーダー的な存在のクラブチームが必要。
- ・ 運営に対する意識
クラブチームによって、社会人野球への参加意識に温度差がある。近い将来、仕分け（ランク付け）が必要かどうか議論すべきである。
- ・ その他
加盟に対するハードルを高くするべきではないか。（加盟するにあたっての義務と権利を明確にする必要がある。）

(3) 各クラブカップ大会の検証と考え方

増加傾向にあるクラブチーム対策として、スタートした各クラブカップ大会（東日本、中日本、西日本）は本年で3回目を迎える。近年、クラブ選手権に出場するチームの競技レベルが向上したこともあって、全国レベルの大会に出場する機会が拡大したという観点から、各クラブチームとも好意的に受け入れられている。一方で、開催地がそのエリアの中央以外となった際に係る経費負担増となったことから一部の地域から開催地についての再検討を望む意見があがった。当委員会として協議した結果、以下の点について提言することとした。

- ① クラブカップ大会の開催地は、当該エリアの中央付近で開催されるべきである。特に東日本大会は、東北地区内に固定すべきである。
- ② 開催期日については現行どおり8月上旬とする。

2. 社会人野球制度改革（社会人野球日本選手権大会改革）案について

(1) 検討の方向性

本年2月に提出した中間報告に基づき、社会人野球のファイナルトーナメントである「社会人野球日本選手権大会」の活性化を図り、この大会を頂点にした社会人野球制度を全体的に再構築していく。

(2) 社会人野球日本選手権大会の改革案策定へ向けて

- ① 第36回大会（2009年度）までは、球場の日程確保や予選への影響から現行形式を大きく変えない。
- ② 第37回大会（2010年度）からの施行へ向けた第二次制度改革案を策定し2008年度中に理事会へ提出する。
- ③ 改革案策定の柱
 - ・ 10月末（又は11月上旬）までにシーズンを終了する。
 - ・ その年度のチャンピオンを決する大会である。
 - ・ 地域の社会人野球（広く野球競技）の振興を目指す。
- ④ 具体的な改善点（改革を必要とする点）
 - ・ 京セラドーム大阪における観客動員数が伸びていない。特に初戦と比較して2回戦、準々決勝の観客動員が厳しい状況である。また、器が大きいので数千人の動員数では空席が目立つ印象を受ける。
 - ・ プロ野球の本拠地である球場を10月に11日間続けて押さえることは困難である。
 - ・ JABA 大会に出場権を与えたことについては各地域の活性化に繋がっているが、対象となっていない大会への出場を希望するチームが減少しており、何らかの対策が必要である。
 - ・ 出場チーム32は妥当かどうか再検討する必要がある。
 - ・ 予選枠の内訳やその考え方を整理する必要がある。（地域振興を目的としたJABA大会枠の拡大及び各地区最終予選枠の考え方など）

- ⑤ 分割開催案の具体的なシュミレーション
事業委員会としては、地域振興を図り、観客動員の促進を図るため、1、2回戦と準々決勝以降を分割して開催する方式について具体的に検討する。

【1、2回戦】

- ・各地（32チームであれば8会場程度）に分散して開催する。
- ・土日祝日開催とする。

【準々決勝以降】

- ・1、2回戦終了から最低1週間程度、観客動員のための準備期間をとる。
- ・土日を中心にした日程とする。（木金土日、金土日月）
- ・観客動員を促進させるため、ドーム球場とする。

※ 今後、開催球場の問題（他の団体との使用調整）や各地区最終予選の位置づけや開催日程、方法などについても検証する。

⑥ 開催球場について

改革案策定にあたっては、京セラドーム大阪に限定するのではなく、名古屋ドームも含めて具体的なシュミレーションをする。

(3) 日本選手権対象のJABA大会における改善点

① 準決勝、決勝の同日開催は原則として避ける。

- ・参加チームの滞在期間短縮の観点から、これまで準決勝と決勝は1日に変則ダブルヘッダーで開催することを奨励してきた経緯があるが、日本選手権対象となったことにより、決勝戦はベストコンディションで試合をしてもらうため、雨天等による順延の場合を除き原則として同日に行わないことを提言したい。

② 北海道大会出場チームに対する補強選手の出場の是非について

- ・現在、北海道大会に限り補強選手の出場を認めているが、日本選手権対象としていることから、単独チームとすべきという意見がある。
- ・現状の問題点として補強選手の派遣期間の長期化の要因となっている。北海道大会が日本選手権対象となったことにより、北海道大会出場チームに限って、補強選手の合流時期が7月中旬に早まっている。
- ・北海道大会については、以前、出場を希望するチームの減少から、数年間休止となったが、都市対抗が8月開催になったことで複数のチームが8月上旬に都市対抗へ向けた合宿を行うようになった点に目をつけて、補強選手を含めた都市対抗出場チームによる大会と銘打って大会そのものを再開させた経緯がある。日本選手権の出場権が与えられたのは、その後（2007年度から）であり、あくまで地域振興の観点から特別に認められた。
- ・提案事項
来年度以降の北海道大会について以下の点を提案する。
 - ◆ できる限り7月中に開催する。
 - ◆ 補強選手の参加は認めない。

- ③ トーナメント大会における開催球場数の拡大
一部の大会では一つ球場でトーナメント大会を実施しているが、雨天順延の影響により試合間隔が広がりすぎた事例があり、経費負担軽減の観点から改善が必要である。大会期間はできる限り短くするため、複数の開催球場を確保すべきである。また、球場確保に際しては、地区内のある限定された都府県内に固執するのではなく、広く複数の都府県に視野を広げて球場を確保することを検討すべきである。
- ④ 東京スポニチ大会の球場確保に対する協力
2008年度より各地区からの要望を受ける形で、大会時期を3月20日前後まで引き下げたが、プロ野球のオープン戦時期と重なり球場確保が思うように行かなかった。来年度以降に向けては、特にプロ球団との折衝など日本野球連盟からの働きかけが必要である。

以上